

[京都府] 京丹後市立久美浜中学校区 (併設型)

京丹後市立久美浜中学校
京丹後市立久美浜小学校
京丹後市立高龍小学校
京丹後市立かぶと山小学校

1. 学校 (区) 概要

- **教育目標**：ふるさとを愛し 意欲的に学び やさしい心もち 根気強く努力する子どもの育成
- **所在地**：京丹後市立久美浜中学校 京丹後市久美浜町640
京丹後市立久美浜小学校 京丹後市久美浜町3369
京丹後市立高龍小学校 京丹後市久美浜町新谷250
京丹後市立かぶと山小学校 京丹後市久美浜町神崎1603
- **施設形態**：3小学校、1中学校による施設分離型小中一貫教育
- **児童生徒数 (R3.5.1時点)**



学年	小学校 (3小学校の合計)								中学校					小・中計
	1	2	3	4	5	6	特支	計	7	8	9	特支	計	
児童生徒数	61	61	73	70	55	71	15	406	67	63	67	11	208	614
学級数	3	3	4	3	3	3	6	25	2	2	2	3	9	34

2. 導入経緯

- 平成22年12月 小中一貫教育研究をスタート
- 平成24年度 指定したモデル学園 (峰山・網野) で研究
- 平成26年度 峰山・網野中学校区で本格実施
- 平成27年度 実施校が3校区となる (大宮中学校区)
- 平成28年度 久美浜学園を含む市内全学園で一貫教育を実施

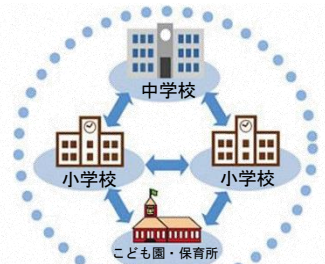
【検討開始のきっかけ】

- 中1ギャップや小1プロブレム、子どもたちの発達の加速傾向といった課題と今後変化の激しい社会で必要とされる力の育成のためには、校種間の接続を一層改善し、より連続性・一貫性のある教育が重要

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

- 京丹後市の「目指す子ども像」である「将来に夢と希望をもって生き生きと学ぶことのできる子ども」を育てるため、「就学前から中学校卒業までの10年間にわたる一貫した子育て支援と教育」の実現により、子どもたちに今以上の「生きる力」を育成することを目的に、市内全域において保幼小中一貫教育を展開。



既存の校舎のままで、中学校区の教職員が積極的に連携し、一体的な指導を実施

施設活用 (施設隣接・施設分離型の場合)

- 久美浜学園は施設分離型。面積144.95km²、人口9,591名(H30現)の京丹後市久美浜町内に7つの園所・小中学校が点在しており、徒歩・自転車の他、20台を超えるスクールバスや路線バスを利用し多くの幼児児童生徒が通学している。
- 年間を通じて交流行事、合同行事を定期的に実施するとともに、ICTを活用した児童・生徒によるオンライン会議も行っている。

教職員体制

- 学園全体の経営を行う組織機能として、「保幼小中一貫教育校経営会議」を位置づけ、その代表となる校園所長を中学校長が兼任している。
- 一部の教職員が兼務発令され、乗り入れ指導等を実施している。



教育課程特例・区切り・区切りを意識させる学校行事等

- 制度上は6-3制をとっているものの、指導上は、I期 (基礎期) 小学校1年~4年 / II期 (充実期) 小学校5年~中学校1年 / III期 (発展期) 中学校2・3年の3つの指導区分で推進。

教科担任制・教員の相互乗り入れ指導

- R3年度小学校においては第5・6学年の社会・理科・外国語で実施、小・中学校在籍の教員が各小学校で指導している。

児童生徒の異学年交流の工夫

- 合唱祭参加や部活動体験、児童会生徒会協働のSDGsの取組など。

市町村教育委員会等による支援

- 各学園に学園コーディネーター、地域コーディネーターを複数配置し、各会議の事務局や広報、学校支援ボランティアの募集や配置などを担当。また、就学前から義務教育期間を通じた計画的かつ系統的な教育を行うための調査、研究及び協議を行うため、京丹後市保幼小中一貫教育研究推進協議会を設置している。

テーマ：小学校における教科担任制の実施

本市の進める小中一貫教育は、現行制度（義務教育6・3制）のもと、「目標の共有、目標実現のための各学校における取組み」、「目標の実現状況の評価による結びつき」によって着実に「目指す子ども像」を実現していく施設分離型である。具体的には、中学校の学習にスムーズに接続するとともに、専門性をもった中学校の教員が小学校で指導することにより、学習意欲を高め確かな学力を確保させる、「小学校高学年における教科担任制」による小中連携、中学校区の規模の異なる3つの小学校の学習を共通したカリキュラムで進めることにより、中学校入学時のスタートラインを揃える小小連携という取組を行っている。そのために、文部科学省小学校高学年教科担任制研究に係る加配教員、小中連携加配や小小連携加配、京都式少人数教育に係る加配教員の配置などを活用し、より質の高い教育の推進を目指している。

久美浜学園における教科担任制の概要

【指導時数・指導教科等(令和3年度)】

- ◆ 小学校5・6年社会科の指導（小学校高学年教科担任制研究専科教員・小学校籍）
- ◆ 小学校5・6年理科の指導（小学校高学年教科担任制研究専科教員・中学校籍）
- ◆ 小学校5・6年外国語の指導（京都式少人数教育に係る加配教員及びALT・中学校籍）
- ◆ 小学校3・4年外国語活動の指導（京都式少人数教育に係る少人数教育加配教員及びALT・中学校籍）

【教科担任制導入によるメリット】

- ◆ 小学校の学級担任制から中学校の教科担任制へ緩やかに移行し、中学校の学習にスムーズに接続することができている。
- ◆ 各教員の専門性や授業力を生かし合うことで、児童の学習意欲や学力が向上したとともに、担任の負担軽減にもなり、働き方改革にも繋がっている。
- ◆ 小学校高学年の時期に、複数の教員の目で児童を捉え多面的に関わることにより、一人一人の児童理解を深め、きめ細かな指導に生かすことができている。

校区小学校が全て同じ内容を学習



小中一貫を活かした「学びを深める」ための仕組みづくり

- ◆ 高学年の「理科」「社会科」の学習活動に沿った「総合的な学習の時間」における特設のカリキュラムによる「丹後学」

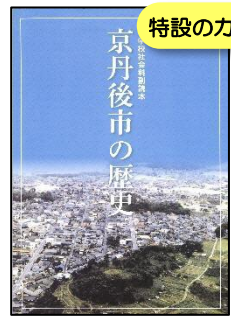
【山陰海岸ジオパーク「大地の学習」(小6) 京丹後市の歴史(中1)】

- ◆ 外国語に早期より親しみをもたせるとともに、中学校入学時までの同一指導内容による語学力の習得

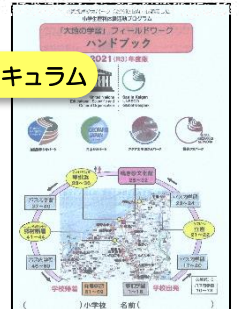
【京丹後市中学生海外派遣事業への積極的な参加】

- ◆ 保幼小間、小小間、小中間の指導の一貫性を追究する指導区分ごとの連携会議の定期的開催
- ◆ 保幼小中の教員による学園全体研修会、授業研究会の実施
- ◆ 中学校入学時のギャップを解消するための、生徒指導・教育相談・特別支援教育分野での指導観の統一と情報共有

特設のカリキュラム



「丹後学」に導く中学校社会科副読本「京丹後市の歴史」



山陰海岸ジオパークを活用した小学生理科体験活動プログラム「大地の学習」ハンドブック

これまでの成果と課題、今後の取組み

- 子どもたちの感想
 - 社会の授業がとてもわかりやすく、専門知識が広がって大変よかった。
 - 理科はたくさん実験ができ、とても楽しく学習に取り組むことができた。
- 久美浜学園内で、「育てたい姿」、「共通指導項目」等を学園全教員で確認して教育活動を展開できた。
- 「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」という生徒指導の三機能を生かしたきめ細かな指導を充実させていくためにも、複数教員の指導により学級をより開かれたものにし、組織的な対応を推進させる。



【展開】協働的な解決
協議・主催・比較・分析

GIGAスクール構想によるタブレット導入以前に学園で先行研究を蓄積。その結果、導入時には学園内の全ての児童生徒が一定のリテラシーを獲得した状態で全ての教科における学習が可能となった。